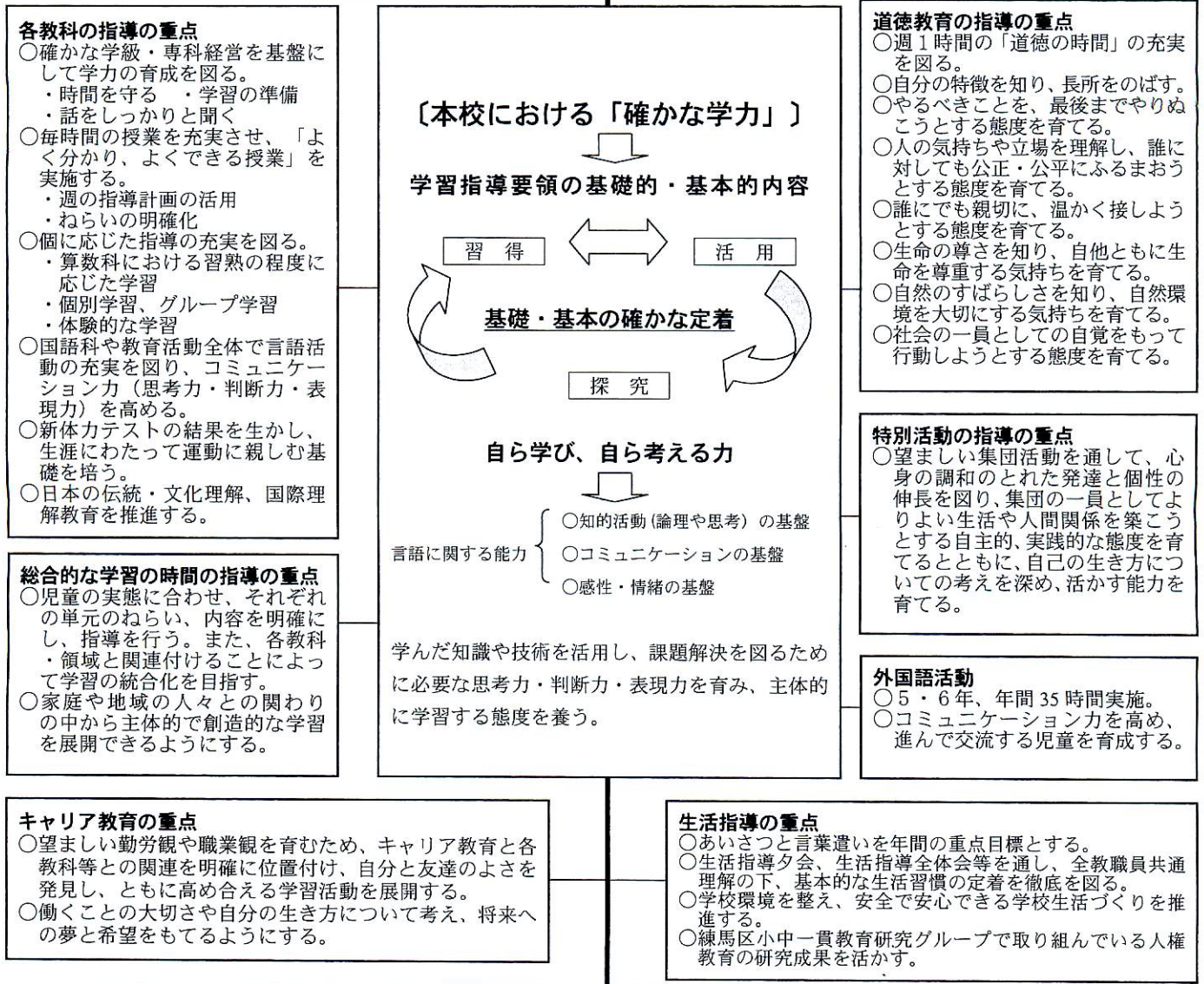


学校経営計画（学力向上にかかわる視点）
基礎的・基本的な学習内容の確実な習得と活用力を育成する



本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研究における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域との連携の工夫
・算数科における個に応じた指導を推進し、習得と活用を図る。 1年（TTによる学習） 2年（少人数による学習） 3～6年（習熟度別クラス編成） ・話す、聞く、伝え合う等コミュニケーション力を高める。 ・全教室にプロジェクタと実物投影機を設置し、ICT活用による分かりやすい授業を実施する。 ・夏季休業日に学力の補充のための補充教室を行う。	・行事の見直しにより授業時間の確保に努める。 ・基礎・基本の定着や読書活動の推進を目指し週3回朝学習・朝読書の時間を設定する。 ・年間12回の体育朝会を行うとともに、マラソン月間や長なわ月間を設定することで、児童の運動に対する意欲を高め、体力の向上を図る。 ・オリンピック・パラリンピック教育推進校として、体力の向上、国際理解教育の推進を図る。	・「楽しさや喜びを味わいながら、すすんで運動に取り組む児童の育成」を目指して組織的に体育の授業改善に取り組む。 ・専門性の高い外部講師からの指導・助言を生かして、指導技術を高める。 ・授業研究を通し、授業力の向上を図る。 ・若手教員に対して、○JTにより授業力向上等の課題解決を図る。 ・小学校外国語活動研修等による成果を校内の指導に生かす。	・各教科の評価規準を見直し、評価規準に基づく評価を行い、指導と評価の一体化を図る。 ・学校行事や授業公開後にアンケート調査を行い改善に活かす。 ・保護者・学校評議員による評価を活用し教育課程の編成に活かす。	・学校だより、ホームページ、保護者会等を活用し学校経営方針を周知する。 ・校内の水田や地域の畑を活用し、地域の農家の方の指導を受けながら農作物栽培体験を行う。
小中一貫教育の視点				
・小中一貫実践校として中学校との連携を一層図る。（家庭学習の連続性、生徒会交流、部活動体験等）				